MEDIA RELEASE

2025 年 11 月 28 日

「マッハ車検 GR Supra GT4 EVO2」
連続入賞でシリーズ 9 位に

Team Noah「マッハ車検 GR Supra GT4 EVO2」は、11 月 15～16 日に富士スピードウェイで開催されたENEOS スーパー耐久シリーズ 2025 第 7 戦(最終戦)「S 耐ファイナル FUJI」に参戦。クラス 7 位総合 19 位からスタートし一時はクラス 2 位まで追い上げ、3 人のドライバーで 4 時間を走り切りクラス 8 位総合 14 位でチェッカー。シリーズ 9 位で今シーズンを終えた。

福岡に本拠を置く Team Noah(代表：清瀧雄二)は、“九州に元気を！九州のモータースポーツにもっとワクワクを！“を合言葉に九州のレーシングチームとして 2018 年より S 耐に参戦を開始。2021～22 年はホンダ・シビック TCR で ST-TCR クラスチャンピオンを獲得した。2023 年は車両を GR Supra GT4 EVO にスイッチし、激戦区クラスであり国際的にも人気を集める GT4 車両による ST-Z クラスへクラス替えをした。昨季は GR Supra GT4 EVO2 を投入。前回の岡山に続き下垣和也が A ドライバーを担当し、B ドライバーに冨田自然(あるが)、C ドライバーに大分出身の森田真心(こころ)と 3 人で 4 時間レースに臨んだ。

最終戦の 4 時間耐久レースに出走した車両は、今回特別クラスとして ST-USA クラスを設け全 9 クラス計 57 台にのぼった。激戦の ST-Z クラスには、GR スープラ、Z、ポルシェ・ケイマン、メルセデス AMG、アウディ R8 と国内外の GT4 マシン 5 車種計 11 台がエントリーした。A、B ドライバー2 名のベストタイム合算で争う公式予選は晴天の 15 日 13 時にスタート。下垣が 10 位、冨田が 8 位でタイム合算の結果クラス 7 位/総合 19 位となった。また森田も難なく基準タイムをクリアした。しかしダンパーのトラブルが見つかり、これを交換して決勝に臨むこととした。

16 日は晴れてはいるが雲もあり富士山は見えない。気温 15℃、路面温度 25℃というコンディションの 13 時 15 分に 4 時間レースがスタートした。冨田がスタートを担当しクラス上位で接触があったこともあり、オープニングラップで順位を 2 つ上げた。4 周目には後続車両にかわされ 6 位となったが 25 周目には 5 位へ、さらに 34 周目には早めにピットインした車両もあり 4 位へ順位を上げた。1 時間 20 分が経過する 43 周で冨田はピットイン。ここで給油作業を行い森田がコースへ。そして 6 位を周回していた 56 周で上位陣が軒並みピットインしたことで、クラス 2 位まで順位を上げ 18 周にわたり走行した。

森田は 73 周でピットインし下垣にスイッチ。ジェントルマンドライバーの下垣は 60 分間の運転義務がある。他のチームのピットインのタイミングもあり下垣は 7 位でコースへ。レースも残り 1 時間に近づいた頃 FCY(フルコースイエロー)が導入されたが、下垣の減速が遅れたということでドライブスルーのペナルティを受けることになった。他車のピットインのタイミングもあり順位を 8 位から 5 位まで上げ、60 分のドライブを終えた下垣はすっかり暗くなった 104 周でピットインし、再び冨田がコースへ。

冨田はナイトレースとなった残り 30 分をドライブし 125 周でクラス 8 位総合 14 位のチェッカー。同時に会場では花火が打ち上げられシリーズのフィナーレを飾った。今季は開幕戦もてぎの 2 レースではマシントラブルにより無得点となったものの、第 2 戦以降は欠場した SUGO を除きエントリーしたすべてのレースで入賞と安定したレースを展開。またプロドライバーも多く参戦する激戦区の ST-Z クラスでシリーズ 9 位とした。今年得た経験は必ず来季に結びつけ表彰台を狙って戦う。

下垣和也「交換したダンパーでのセッティングがマッチングしていなかったのか、正直乗りにくくリズムも悪く苦しみました。アベレージ良く走ろうとしましたがうまく上げられませんでした。今年は 3 戦で走ることができましたが、GT4 スープラの運転は難しく少しずつ慣れていったという感じです。タイヤをマネジメントしながらアベレージを上げるという走りを学べたのは収穫でした」

冨田自然「このレースウィークはクルマのセットアップなど悩むところが多々あり苦戦していましたが、ある程度までまとめることができました。僕自身としてはもっとアグレッシブに行きたかったところはあるのですが、ギリギリで走るなど苦労しました。今年は去年のデータを生かしてドライバー同士で共有しエンジニアやメカニックとのチームワークも整ったシーズンになりました」

森田真心「悔しいレースでした。冨田選手が順位を上げてくれたので、それに続けて順位を上げ表彰台を狙いたかったのですが、そんなにうまくはいかないです。途中 2 番手も走ることができましたが、僕たちにもそれだけの力はあるのだとポジティブに感じられました。今年は年間通して速さが結果に結びつきませんでした。来年も乗ることができたら今年の経験を生かします」